

# 農業総合試験場の開場

- 昭和39年 愛知県農林水産関係試験研究機関整備審議会を設置
- 昭和40年 建設開始
- **昭和41年12月 開場**
- 昭和45年までに園芸、養鶏、蚕業、作物、畜産の各研究所を順次設置



建設に5年の歳月と総額30億円をかけて完成

【昭和40年】

農業試験場(安城市)  
園芸試験場(清洲町)  
肉畜試験場(春日井市)  
養鶏試験場(清洲町)  
蚕業試験場(江南市)



統合

【昭和41年】

農業総合試験場(長久手村)

# 昭和40・50年代

## ■ 世の中の動き

- 昭和44年 東名高速道路開通
- 昭和45年 大阪万博
- 昭和48年 第1次オイルショック
- 昭和54年 第2次オイルショック
- 第2次農業構造改善事業等による農業近代化施設の導入が促進



東名高速道路



大阪万博



東三河地域の温室団地

## ■ 農総試の動き

- 40年代は、稲作の機械化一貫作業、露地野菜の機械化、牛、豚、鶏の多頭羽省力管理技術の開発など、機械化や省力化のための研究が中心
- 50年代は、省力機械化に加えて、省エネ、高品質安定生産技術を追求



側条施肥直播機の試作



サークル式高速そ菜移植機の実証

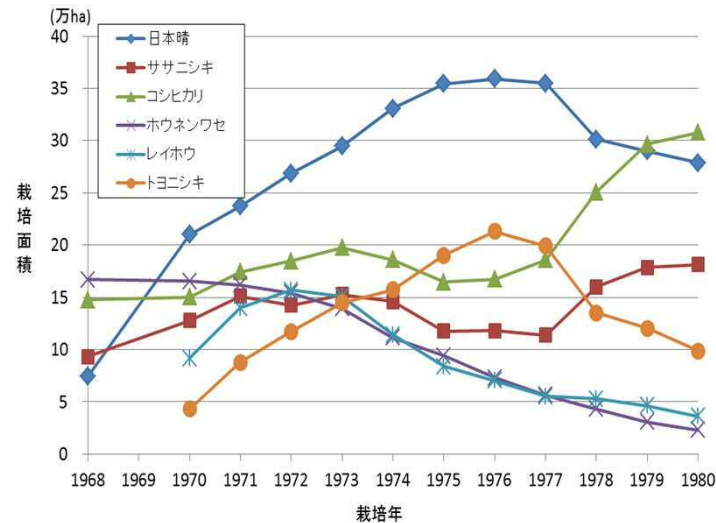
# 昭和40・50年代

## ■ 主な研究成果

### ■ 栽培面積9年連続日本一！ 昭和の超大物品種「日本晴」



愛知県で開発された品種「日本晴」



主要品種の栽培面積の推移（昭和43～55年）

### ■ イネミズゾウムシの防除対策の確立



### ■ 日本一のキク産地を確立した電照による周年栽培技術



- 昭和38年に開発した「日本晴(にっぽんばれ)」は、昭和45年から53年までの9年間、栽培面積が全国1位
- 「日本晴」は倒伏に強く、機械化栽培に適した多収の品種
- いもち病、白葉枯病などの病気に強く、良食味



# 昭和60年代・平成初期

## ■ 世の中の動き

- 昭和61年 バブル景気
- 平成2年 バブル崩壊
- 平成5年 ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意



バブル崩壊

## ■ 農総試の動き

- 土壌、水質、大気、残留農薬等に関する研究をクローズアップ
- バイオテクノロジーを活用する研究に着手



豚の受精卵移植



作物育種実験棟



水田浄化機能調査用井戸の掘削



農薬の暴露量調査

## ■ 主な研究成果

### ■ あいちのブランド「名古屋コーチン」の改良



肉用名古屋コーチン



卵用名古屋コーチン

- 名古屋コーチンは昭和40年代に絶滅の危機に瀕したが、農総試が産肉性に優れる「肉用名古屋コーチン」を開発し、生産が復活
- 卵用名古屋コーチンを開発

### ■ パソコン用簿記ソフト「決定版簿記」の開発

借方	勘定科目	貸方
788,585	11 現金	
1,738,504	12 農協預金	
890,000	13 その他預金	
5,210,001	14 定期預金	
2,534,872	15 売掛金	
4,500,000	17 貯蓄貯金	
3,814,086	19 事業主貸	
7,857,000	21 仕掛品	
85,400	25 肥料農業等	
883,500	26 諸材料	
3,842,112	28 車両運搬具	
4,045,504	30 機械器具	
29,797,186	31 建物施設	
	当期純利益	4,848,188
88,794,549	合計	88,794,549

### ■ 大ヨークシャー種の「アイリスW」を開発

